

# 日本薬学会 第134回年会（熊本）シンポジウム

## 「天然物化学の新潮流と将来への展望」

オーガナイザー：阿部 郁朗（東大院薬）

塚本佐知子（熊大院薬）

日時：平成26年3月28日（金） 15:00～17:00

場所：黒髪北地区 文学部 2F（AC会場）

過去15年にわたり、ハイスループットスクリーニング技術の台頭、それに見合う合成化合物ライブラリーの充実によって製薬会社の天然物化学研究は衰退していった。時を同じくして、承認に至った新薬の数は減少している。一方でここ10年の間に生体内分子の機能を制御する低分子化合物を扱う新領域としてケミカルバイオロジーが登場した。一般に天然物の生物活性は極めて特異性が高いことを考慮すると、特異的生物活性を示す新しい天然物がケミカルプローブや新薬に貢献していくことは疑いのないことであり、今後その重要性は益々増すものと思われる。従来から分野間の境界領域として成り立ってきた天然物化学は、近年の周辺技術の発展に伴いさらに多面的な広がりを見せつつある。新しいスクリーニング方法、分子生物学、代謝工学、合成生物学など周辺多領域の内包と分野の拡充は天然物化学を新しい様相へと転換しつつある。そしてなにより未だに膨大な未開拓生物資源が残されている。本シンポジウムではこのような新しい天然物化学およびケミカルバイオロジーへの展開に関する最新の研究成果について議論することを目的とした。本シンポジウムを契機に、天然物化学の未来像を浮き彫りにし、薬学における天然物化学の役割を模索していきたい。

### 【プログラム】

メロテルペノイド生合成マシナリーの解明と制御

（東大院薬） 阿部 郁朗

真菌由来ピリピロペン A からの創薬を目指して

（北里大院薬） 供田 洋

天然化合物を用いたケミカルバイオロジー研究

（慶応大理工） 井本 正哉

真菌由来アルカロイドの鏡像異性体に関する研究

（熊大院薬） 塚本佐知子

沖縄産海綿由来の海洋天然分子の構造と生物活性

（北大院薬） 小林 淳一

問い合わせ先：阿部郁朗 TEL: 03-5841-4740 E-mail: abei@mol.f.u-tokyo.ac.jp